第170号
昭和39年6月1日

広報おだわら

昭和29年10月15日
第三種郵便物認可

毎月1日発行
定価1部 3円

発行所
小田原市役所
小田原市幸1～900
編集兼発行人
佃 三郎
株式会社文流堂印刷
全世帯配布

小田原市の人口
5月1日現在
人口 137,220人
男 68,189人
女 69,031人
世帯 31,237世帯
前月との比較
人口 1,037人増
男 430人増
女 601人増
世帯 206世帯増

6月の広報ごよみ

- ◎社会調査（1～7日）
- ◎由布院の日（1～7日）
- ◎時の記念日（6日）
- ◎入梅（11日）
- ◎夏の無線安全週間（11～17日）
- ◎国道愛護週間の日（20日）

市民会館の増築はじまる

会議室など中心に地上六階建てのビル

市はかねから市民会館の補付属施設全元と市民活動の拠点の整備を図るためとりあげていましたが、昨年度から設計を進めてきました。厚生省から発生年金資金元金の借入を申請しておりますが、金額元金元利の償還等の計画書提出を求められましたので、昭和三十八年度から三年間で増築することになりました。

増築は、鉄筋コンクリート造り地上六階建、延床面積一、一〇〇坪、建築費一億二千万円の予定です。

現在の市民会館は、一九六一年（昭和三十六年）五月、四百三十人収容のホール、五百、三百五十人収容の中ホール、三百五十人収容の小ホールを備えた、鉄筋コンクリート造り地上三階建の市民会館として、音楽や演劇を中心に、市民の文化活動の拠点として、また、市民活動の場として、多目的ホールとして、展覧会、大会、集会、講演会等、多くの市民に利用されてきました。

しかし、市民の文化活動の高揚と、市民の福祉の向上のためには、会議室、集会室、研修室、図書室、その他の諸施設の増設が必要であり、これまでいろいろ検討されてきました。

また、市民活動の拠点として、市民活動の場の提供、市民活動の相談、情報の提供、市民活動の育成、市民活動の調査研究、市民活動の啓発、市民活動の交流、市民活動の支援

新自治会長きまる

広報委員二四七名も委嘱

市はこの日午前市内日土会館で自治会長会のそれぞれ一堂に会し次期自治会長の選出を行ない、二百四十三名の自治会長が選出され、四月一日付けで各自治会長宛の委嘱状が手渡された。

これらの自治会長は、今後区内の各種行政事務に協力を願うことになっている。

また、これら自治会長は、今後区内の各種行政事務に協力を願うことになっている。

また、これら自治会長は、今後区内の各種行政事務に協力を願うことになっている。

なお、市内二十二の地区自治会長五名、市内二十二の地区婦人会長五名、市内二十二の地区青年会長五名、市内二十二の地区老人会長五名、市内二十二の地区民生委員五名、市内二十二の地区消防分団長五名、市内二十二の地区消防副分団長五名、市内二十二の地区消防副分団長五名、市内二十二の地区消防副

まず手洗いの励行を

赤痢など伝染病の予防に

じめじめとした梅雨時の暑い日の年間第三十七番の「赤痢」のご。これから梅雨に入るにつれ腸管の伝染病の発生が多くなってきます。

このような赤痢は、急性伝染病のうちも最も発症率の高い病です。小田原保健所では、夏の伝染病、年間の発生は、特に、梅雨に入る頃から発生し始まり、特に、夏は他の病に比べ多く発生します。

そこで、次のことがらに十分注意をされる事。

食べ物はよく煮る

赤痢にかからないようにするためには、

手をきれいに

見聞きされて細菌等十五人、四月中十五人（昨年は、手を洗わない伝染病患者の中）

手洗いの励行

赤痢などの伝染病の病原菌の多くは、ばい菌、汚物等を通じて、ばい菌の汚物を通じて、ばい菌の汚物を通じて、ばい菌の汚物

豪華にくりひろげられたお城まつり

二日間とも観客でにぎわう

観客でにぎわうお城まつり

恒例の小田原城まつりが、さ、六、十日の二日間にわたり開催され、初日まれなる五月十二日朝まだ夜の明け前、四日ごろから徐々つづいた厳しい寒さ、また第二日目とは思えぬ暖かい気候で、北条氏の栄光を偲ぶ城下町は、二日間とも観客で埋まり、大変にぎわいました。

第一部の「小田原城址公園外郭」では、北条氏神社を始め、二宮、二、柳、高橋、豊臣秀吉の陣跡、小田原城跡、三枚橋城跡、三の丸、馬の会、到着少々ゴチャ、ゴチャ、ゴチャ、